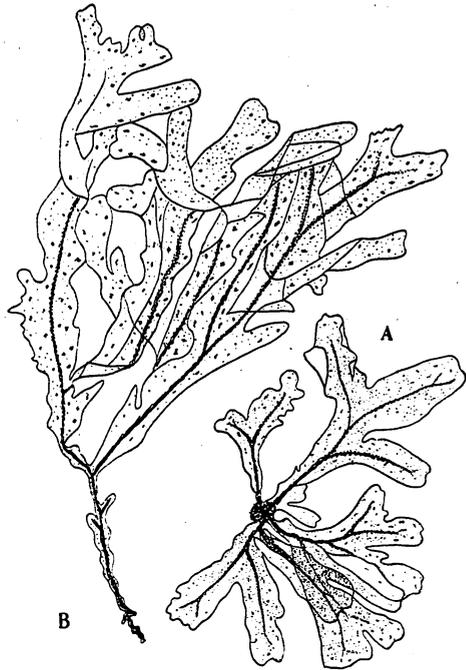


5. *Encheuma muricatum*  
(GMEL.) WEB. v. BOS.  
f. *depauperata* WEB. v.  
BOS. キリンサイ

キリンサイは、又リウキ  
ウツノマタとも云い南宇和郡  
由良には多く産するが伊豫灘  
・齋灘には今迄採集されたこ  
とがない。然るに燧灘の西方  
四坂島と其の對岸周桑郡楠何  
村大字河原津の海岸には花崗  
岩の磯に少し之を産すること  
が知られて居る。この藻は暖  
流の影響を受けて沖縄島より  
伊豆七島にかけて分布して居  
る。此の様な南方性分子は本  
縣では多く佐田岬の南方に止  
まつて居るが本種は内海奥深  
く突入して居る。さて元來内  
海産藻の特質としては細いも  
の、薄いもの即ち繊細なもの  
で且つ柔軟なものが多いにも不  
拘本種の如き多肉・軟骨様の南  
方性要素があると云うことは著  
しいことである。



第2圖

*Dictyopteris divaricata* OKAMURA  
エゾヤハズの2個体× $\frac{1}{3}$

(松山市 北高等學校)

ハハキモク (*Sargassum kjellmanianum* YENDO)

の原標本に就いて

山田 幸男

先般米國イリノイ州のノルマル大學 (Illinois Normal University) の助教  
授フェンショルト女史 (D. E. FENSHOLT) から來信あり、北米オレゴン州等

で此の種と覺しきものを採つたが遠藤博士の原標本と比較し度いからその標本を、或いはそれが不可能ならその寫眞でもよいから送つてほしいとの依頼を受けた。そこで東大の腊葉庫にお願いをして遠藤博士の標本の此の種の大部分即ち 22 枚の標本を借用、序手に自分も久し振りで此等の標本を詳しくしらべることが出来たので氣付いた點を書きつけてみた。

先ず遠藤博士の標本の大部分に於てそうであるが新種を記載された場合の“Type”という標示はなくて記載の際に用いられた標本には“Specimen original”という書込みがありこれは 1 種に對して 1 枚の場合もあり又數枚に及ぶものもある。又採集者の名前がないものが多いがこれはその大部分が博士自身の採集にかかるものと察せられる。又全標本を通じての番號は打つてない。

そこで上の 22 枚の標本中基本種の標本は 11 枚で夫々次の様になつてゐる。

産 地	採集時	採集者	その他
1) 駿州江ノ浦	27, 3, 18		Herb. Imp. Museum. no. 51
2) ”	”		Herb. Imp. Museum. no. 50
3) 下 風 呂	April, 1903		
4) 函 館	”		
5) Karafuto	May, 1910	S. MURATA	
6) 函 館	May, 1903		
7) 越後柏崎	May. 9, 1916	中村正雄	
8) Sado	Dec. 1909	T. OBARA	
9) ”	”	”	
10) 越後鯨波	June, 6, 1909	中村正雄	
11) Oshoro	April, 1909		

次に *f. muticum* の標本には次の 12 枚がある。

産 地	採集時	採集者	その他
12) 紀州出雲	April, 1902		
13) 福岡縣企救郡城野村		矢野宗幹	
14) 鳥 羽	29/1/54		
15)			
16) 相模城ヶ島	Oct. 14, 1898		
17) Nemoto, Awa	Jan. 1, 1899		
18) 志州安樂島	March, 1902		
19) 福岡縣企救郡城野村		矢野宗幹	
20) 七里ヶ濱	Nov. 1904	平山復二郎	
21) 志州波切	March, 1902		

22) 陸前松島                      July, 1899                      拓 植  
       "    "    "

上の 22 枚の標本中生殖器托のあるものは僅かである内 4 番では生殖器托は全部雄性であり、ハハキモクの特徴である「同一生殖器托中に雄の生殖窠と雌の生殖窠とが混在する」と一致しない。然るに 1 番の駿州江ノ浦の標本は此の性質を示している。そして他の七里ヶ濱等の標本では生殖器托は存するが若くて性別等は判然としない。

即ち遠藤博士の標本中で同一生殖器托中に雄と雌の生殖窠の混在することの判然としているものは駿州江ノ浦の標本のみということになる。然るに此の産地は遠藤博士の "Fucaceae of Japan" にも又それより前に發表された日本産馬尾藻科目録中にも引用されていない。つまり遠藤博士の *Sargassum kjellmanianum* という種の考えは純粹なものではなくして他の種即ちミヤベモクの如きものが混じていた様に思われるのである。

(北海道大學理學部植物學教室)

## 岡山大學玉野及び本島臨海實驗所と その附近の海藻

猪 野 俊 平

瀬戸内海國立公園の中心地である玉野市の澁川海岸につくられた岡山大學理學部玉野臨海實驗所は、國鐵宇野驛よりバスで約 25 分、澁川で下車して徒歩で 3 分、岡山驛より約 1 時間半でいける便利な新しい研究所である。(第 1 圖参照)。坪數 67 坪のコンクリート平家建て (第 2 圖)、實習室 1、研究室 3、圖書標本室 1、暗室 1 と宿泊用の 6 疊の和室が 2 つあつて、各研究室には海水及び淡水が通してある。殊に實習室には、海水水槽 4 と淡水水槽 2 とがあつて培養に便である (第 3 圖)。また同時に建てられた玉野海洋博物館の水族館 (第 4 圖) は 47 個の水槽と他に 3 個の豫備水槽、小ガラス水槽 9、屋外、屋内に 1 個ずつのプール状の大飼育槽があつて、海水は 5 馬力のモーター (他に同馬力の豫備ディーゼルエンジン) で揚水し、水族館と實驗室へ同時に通しており、配水は全部開放式で、配管はビニールも用いている。水族